

まちひとしごと

Vol. 46

倶知安町地域おこし協力隊
ビバス・リリィ さん

自分らしく暮らせる場所 この町をもっと好きに



日 本語と英語、スペイン語を
話すビバス・リリィさん、

趣味はアウトドアスポーツと話す
彼女は、昨年4月に倶知安町地域
おこし協力隊として採用された。

彼女は、日本から約1万4千^{キロ}
離れた南米ベネズエラの首都カラ
カスで、ベネズエラ人の父と日本
人の母との間に生まれ、8歳の頃
に同国の政情悪化などの理由から
家族で横浜に移住した。

小学校低学年で日本での暮らし
を始め、当初は言語はもちろん文
化的な違いに悩んだ時期もあった
が、時間が経つにつれ自然となじ
むことができたと話す彼女は、高

校卒業後、首都圏の大学に進学し
情報発信などについて学び、大学
4年時には都内にある在日ボリビ
ア大使館の内定を受け、正式採用
を前にインターンとして勤め始め
ていた。

「首都圏での暮らしは仕事の面
においても非常に便利でしたが、
幼いころに育ったベネズエラの雄
大な自然環境へのあこがれが強
く、仕事をするために都会で暮ら
し続けるよりも、自分らしく生き
られる場所で働くことを大切にし
たいと考えるようになりました」

彼女は、大学卒業を前に、地方
での求人を探し、その際、倶知安
町地域おこし協力隊の募集を知っ
たと話す。

「報道などでニセコについて見
聞きはしていました。求人を見つ
け、倶知安町についてインター
ネットなどで調べるうちに、ニセ
コ地域の中心的な町であることを
知りました」

大学で学んできたことや語学を
活かせる地域であることはもちろ
ん、自然に恵まれた環境で暮らせ
ることに何より魅力を感じ、大使
館の採用を断り、協力隊への応募
を決めたという。

協力隊就任後、春からは観光関

係団体のスタッフとして、地域の
魅力を発信するための動画制作に
関わり、さまざまな情報を発信す
るとともに、フードイベントの開
催などに携わり、国籍を問わずこ
の地域で働く人々に接してきた。

「この地域に対しては以前から
国際的な印象を持つていました
が、仕事を通じ、実際に日本人と
外国人が共存しながら、地域の課
題に対し試行錯誤する現状を目の
当たりにし、言葉を通じて両者の
理解を深めていくことの大切さを
強く感じています」

協力隊としての活動は間もなく
2年目を迎える。リゾート地とし
ての倶知安町には、仕事の面だけ
でなく趣味も通じて触れてきた半
面、それ以外の部分はまだまだ知
らないことが多いと話す。

「今年は、観光の仕事だけでな
く、さまざまな場面に outgoing、こ
れまで以上に多くの町の人と
お会いすることで町を知り、
倶知安町をもっと好きになる
一年にしたいと考えていま
す」

※まちひとしごとは不定期連載です